

委員会レポート 一視察報告一



R7.11.6 北淡震災記念公園
野島断層保存館



R7.11.7 枚方市

本物の地殻変動、地震の凄まじさ脅威から備える大切さ

北淡震災記念公園

阪神・淡路大震災で動いた活断層が10キロメートルにわたって地表に現れ、保存館では露出した断層が140メートル当時のまま保存されている。

北淡町は、わずか10秒の縦揺れで家屋の9割以上が損壊したが、日頃から家族構成や生活状況を把握していた為、全員救出行方不明者ゼロ。地域で支え合う、自分の命は自分で守る。防災意識の重要性を語られた。

大阪府枚方市

平時からの情報集約と初動の

速さが要であると実感した。

公式Eメールに災害情報を集約し、警戒から本部队体制へ段階的に移行。避難所開設をフォローするための事務局80名の交替運用で持続性を確保。一次避難所52箇所に加え自治会館の活用や安否カードも実装的で、在宅避難の把握・支援マッチングは今後の課題。

地震や台風等の被害を教訓として「共助」を基軸とした自主防災組織の取り組みを一層強化している。ドローンは、企業三社と協定を結んでいるが市での保有は無いとのこと。

総務委員会

県外視察

子育て支援と教育施策の先進事例を調査

本町では、公立保育園の民営化計画や「こども誰でも通園制度」が始まる。また、発達性ディスレクシア(読み書き困難)への対応や貧困世帯の学習支援等の取り組みも求められている。近年、子育て支援や教育環境の充実が自治体にとって重要な政策課題となっている。本委員会では、今後の施策検討の参考とするため、先進的な自治体を視察する。

栃木県宇都宮市

公立保育園の民営化の進め方と、未就園児が利用できる「こども誰でも通園制度」について調査。

茨城県つくば市

貧困世帯の子どもへの学習支援「青い羽根学習会」と、発達性ディスレクシアを早期に見つける取り組みの説明を受けた。いずれも子どもや家庭に寄り添った支援であり、地域や民間と連携した取り組みが進められていた。

本町においても、公立保育園の民営化への円滑な移行や、保育サービスの充実、学習支援・発達支援の充実に向け、今回の視察成果を今後の施策検討に活かしていきたい。



R8.1.15 宇都宮市

こどもふくし委員会



R8.1.16 つくば市

県外視察

3 常任委員会と議会広報特別委員会の4委員会で県外行政視察を実施しました。

自家用有償旅客運送(公共ライドシェア)

京都府福知山市

バスやタクシーだけでなく、地域の協議会等が運営する、自家用車(白ナンバー)での有償運送(交通空白地有償運送)を三和町と大江町の2地域がドア・ツー・ドアサービス型の区域運行で実施している。

三和町の「みわひまわりライド」は、主に買い物等で利用されている。

料金は、1人1回400円。ドライバーの登録人数19人、登録車両19台。手当は、運転1回、持ち込み車両800円、会保有車500円。

大江町の「鬼タク」は、医療機関や交通機関の乗り継ぎ等で利用。観光客でも利用可能。

料金は、生活利用1人1回400円、観光利用1人1回800円。ドライバーの登録人数21人、登録車両19台。手当は、運転1回800円。

本町は人口密度が高く、利便性にも優れているが、福知山市を参考に、地域住民と関係機関の連携により、効率的な地域公共交通が構築されることを期待したい。



R8.1.21 福知山市

県外視察 まちづくり委員会



R8.1.26 開成町



県外視察 議会広報特別委員会



R8.2.5 長泉町

議会を身近に感じてもらえる広報紙を目指して

神奈川県足柄上郡開成町

広報紙と議会ウェブサイトの両輪で「読む」から「見る」へと発想を転換。動画を使う事で議会から話しかけ、呼びかけられると考えた。例えば議員自らの言葉で語る自己紹介動画。一般質問を20秒動画で紹介するなど迅速で分かりやすい発信を徹底していた。また閉会時の議場の活用やキッズモデルなど、若い世代が議会を身近に感じる仕組みづくりが進んでいると感じた。

える広報紙を目指し、全面的にニューアル。紙面デザインには徹底して写真や余白を多く取り入れ読みやすくした。その上、タイムリーで正確な情報を伝える構成に。町民インタビューやクイズ企画等、住民とともに作る広報を実践していた。

静岡県駿東郡長泉町
より多くの町民に読んでもらう
どちらも広報を議会改革の中心に据え、「チーム議会」となっており取り組む姿勢を感じた。紙とデジタルを活用し、分かりやすい情報発信と住民参加の視点を取り入れた広報紙から、議会を身近に感じてもらえる工夫を追求していきたい。